

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第304号 2022年4月27日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニーブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



Magome. vd. paĝon 9

◀◀ 目次 ▶▶

維持員総会の記録	2
Vidindaj Lokoĵ en kaj ĉirkaŭ Nagojo (11) (Huĝimoto Hideko)	9
まぼろしを幻と知りつつも・・・言語障害治療法としての翻訳 (森田明)	11
梶弘和先生の思い出 (米川五郎)	12
牧野三男編楽譜集『萌える若草 Arboj verdas nun』 (山田義)	13
仏教聖典改訳第3版について (山口真一)	14
Sinprezento de nova membro (Naomi Hiraishi)	15
活動日誌	15
出版会解散告知・編集後記	16

維持員総会の記録

概要

場所 松原コミュニティセンター

日時 3月12日（土）14時～16時

議長 今井田健二

書記 湯浅典久

現出席11名（内リモート7名）＋委任状18名＝29名

（維持員総数40名のうちの過半数で総会成立）

（1）事業報告

（1-1）インターネット関連

（1-1-1）ウェブサイト

- ・ 2021年12月10日 [本と批評]エスペラントの本と批評を更新し、伊藤俊彦「読書日記 2021～」を設けました。
- ・ 2021年6月28日 [講習会・学習会]学習会（講習会）を更新しました。
- ・ 2021年6月7日 [トップページ]第107回日本エスペラント大会へのリンクバナーを撤去しました。
- ・ 2021年6月7日 [本と批評]読書日記を更新し、『歴史・文学・エスペラント』の著者による紹介を追加しました
- ・ 2021年6月1日 [講習会・学習会]学習会（読書会）を更新しました。
- ・ 2021年5月8日 [NEC案内]委員会メンバーを更新しました。
- ・ 2021年5月8日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加しました。（298号）
- ・ 2021年3月30日 [行事案内・報告]2020年ザメンホフ祭の報告を追加しました。
- ・ 2021年2月7日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加しました。（297号）
- ・ 2021年2月7日 [行事案内・報告]行事案内を更新しました。（ザメンホフ祭案内と入門講習会）

上記の通り、10回の更新を行った。（昨年度の更新回数は11回。）

（1-1-2）Facebookページ

- ・ 「いいね！」205人（前年対比+39）・フォロワー数217人（前年対比+46人）
- ・ 2020年は11本の記事がアップされた（前年と同じ）。イベント報告、読書会関連情報など（伊藤8本、山口2本、山田1本）

- ・若い世代ではFacebookは時代遅れ
文字情報ではなく画像や動画。一過性。プライバシー重視が求められる
とはいえ高齢者中心のE界ではまだ活用の余地がある。

(1-1-3) メーリングリスト [esperantistoj_de_tokai]

- ・ 投稿総数12件（前年対比-4）
- ・ 情報交換の場として活用されているが、発信者はほぼ限られている。
- ・ 単なる告知ではなく意見交換に使いたいが。。。
- ・ 配信メンバー43人（前年対比+1）

(1-1-4) 掲示板

- ・ 12件の記事。すべてセンター事務所使用予定。掲示板の目的は、使用予定の把握と管理に特化している。

(1-2) 企画教育

(1-2-1) 中級講習会

毎月 1回ないし2回 17:30~19:30（全17回実施）

参加人数：5名

講師：小川一夫

内容：雑誌記事やネット記事のコピー。自由作文。Fundamenta Krestomatioなど

(1-2-2) 入門講座

第4期：1月から6月まで11回実施

講師：山口眞一

参加人数：2人

教材：「ドリル式エスペラント入門」

受講料：1000円／回

(1-2-3) 初級講習会

7月から11月まで5回実施

講師：山口眞一

参加人数：2人

教材：手紙を読む

受講料：1000円／回

(1-2-4) 愛知サマーセミナー（講座「国際語エスペラント」）

7/18 愛知サマーセミナーに講座「国際語エスペラント」を出講

会場は名城大学大曾根キャンパス

講師：山口眞一、他スタッフ4人

受講3人。

(1-2-5) 日本エスペラント大会分科会

9/19 分科会「新美南吉の会」を主宰

発案：永瀬、司会：山口、朗読：松田洋子、コメント：後藤みわこ他
参加13人。

(1-2-6) ザメンホフ祭（兼出版記念パーティ）

3/27 バンケットルームにて

13人

司会：今井田

(1-2-7) ザメンホフ祭（忘年会）

12/21 居酒屋にて

7人

幹事：山口

(1-2-8) その他

姉妹都市、コラボフェスタは、実施せず。

日本大会での名古屋からの協力者は報告書に名前を列挙した。

(1-3) 機関紙

(1-3-1) 各号の内容

第299号／1月26日発行 14ページ

『歴史・文学・エスペラント』刊行までの経緯（伊藤俊彦）／大会ボランティア
の声（Nakayama Kinzi・中山昭子）／Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (9)
（IMAJDA Kenĝi）／Ĉu la homaro povas progresi al eterna paco?（Yamaguti
Sin'iti）／活動日誌・中級講習会／維持員総会・ザメンホフ祭・編集後記

第300号／5月6日発行 28ページ

センター通信200号の歩み（SOJO）／センター通信300号によせて（山口眞一）
／遺す、広げる（山田義）／「パンライターP45」の頃（森田明）／2020年度総
会報告／2021年度センター委員長として（山口眞一）／委員会職務分掌／委員の
自己紹介／VIVI EN HARMONIO KUN LA NATURO（Márkus Gábor）／
NUMATA Ehan kaj JBLE（Yamamoto Osamu）／斎藤秀一顕正活動（別府良
孝）／ザメンホフ祭報告（山口眞一）／活動日誌／編集後記

第301号／8月9日発行 6ページ

「エスペラントの日」記念公開講演の報告（小川博仁）／愛知サマーセミナーでエス
ペラント講座（山口眞一）／La Ideo de Egaleco Demandata（Yamaguti Sin'iti）／活
動日誌・活動予定／編集後記

第302号／10月27日発行 10ページ

第108回日本エスペラント大会の感想（今井田健二）／「新美南吉の会」報告（山
口眞一）／新美南吉の作品について（後藤みわこ）／Pripensi pri unika travivo
de Esperanto（KAWARA Hiro）／Pri Okudzhava（Nakayama Kinzi）／Vidindaj
Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (10)（Huĝimoto Hideko）／阪直さんの思い出（山本

修) / エスペラントは未来志向の言語である (別府良孝) / 「センター通信」全バックナンバーをデジタル化 / 活動日誌・ザメンホフ祭 / 編集後記

(1-3-2) 総括

◎発行回数は昨年度と同様、総頁数58 (前年より18減)。

◎300号記念号を、山田義さんの協力で発行できた。

◎全バックナンバーのデジタル化のため後藤委員の協力をえた。

◎全バックナンバーの製本には山田義さんが作業にあたった。

◎デジタル化されたバックナンバーは年ごとにファイルにしてクラウドストレージ (box) に保管した。この件をROおよびネット上で告知し、数名に閲覧リンクを送付した。

(1-4) 蔵書

写真撮影済み2,500についてはJEIの図書リストをベースにデーター入力を終えた。今後、3人分のデーターを統合してリストを作成し、duoblaも調査する。また、撮影未終了については蔵書部会 (前任者の山田義氏も含めた) で進めていく。

(1-5) 読書会

日時:

2021年 4 / 20、5 / 25、6 / 22、7 / 27、8 / 24、9 / 28、10 / 26、11 / 23、12 / 21、

2022年 1 / 25、2 / 25、3 / 22 (予定) 合計12回開催 (予定を含む)。

会場: Zoomによるオンライン開催

参加者6名

進め方等:

毎回、予め指定された範囲 (6 ~ 7 ページ程度) を予習し、当日は参加者が順番に1ページほど読んだ上で内容を要約し、その後、理解できなかった箇所、時代背景、執筆者の見解などテキストの解釈をめぐって自由に発言し、討論するというやり方で進めた。

実施状況の報告・次回の予告:

読書会の内容を名古屋エスペラントセンターのFacebookで随時報告している。

2021年度については、2021年は6 / 23、8 / 6、2022年は2 / 27の計3回報告。

テキスト

読書会Ni legu は2014年6月12日発足以来、間もなく8年になろうとしている。これまでに読んだテキストは以下のとおりである。

・Hori Jasuo “Raportoj el Japanio 15” 2014. 6 / 12 ~ 6回

- ・ Julian Modest “ Mara Stelo ” 2015. 1/29 ～ 5回
- ・ 雑誌Monato 2015. 7/28 ～ 7回
- ・ Julian Modest “ La viro el la pasinteco ” 2016. 2/24 ～ 10回
- ・ István Nemere “ Krokize de mia ĝardeno ” 2017. 1/27 ～ 7回
- ・ Kalle Kniivilä “ Homoj de Putin ” 2017. 8/16 ～ 26回
- ・ Julian Modest “ Dancanta kun Ŝarkoj ” 2019. 12/18 ～ 2022. 2/25
18回

次回（3/22）からは、Júlia Sigmond の“ Júlia Sigmond 90 ”を読む予定。

まとめ：

2020年11月24日以来、毎月オンラインで開催。月に1回ではあるが、参加者全員でエスペラントのテキストを読みかつ自由に議論する楽しみを味わうことができた。ただ、オンライン開催はそれなりに快適ながら、すっかりそれに慣れてしまったので、コロナ禍が収束してもセンター事務所で再開する気にならないのではないかと、今から悩ましい。

（2）決算報告

毎年繰越金は減少している。このままで推移すると3～4年で今の事務所を維持できなくなる。

【意見】決算の増減+-が逆、収入、支出は同じ→訂正する。

出版会の残額が25万円あるので、1～2年はセンターの寿命が延びる。

【質問】未収金は会費の未納か？－そうです。

(2-1)決算書

2021年度決算書（会計年度 2021年1月～12月）			
収入の部			
科目	予算	決算	増減
前年度繰越金	694,402	694,402	0
現会員（40）	468,000	451,500	-16,500
新再会員(6)	70,000	60,000	-10,000
寄付	100,000	110,740	10,740
事業収益費	30,000	14,498	-15,502
本の売上	100,000	13,760	-86,240
その他	0	2	2
計	1,462,402	1,344,902	-117,500

支出の部			
科目	予算	決算	増減
家賃	448,800	448,800	0
共益費	158,400	158,400	0
保証協会	7,596	7,596	0
電気代	108,000	98,139	-9,861
通信作成代	23,000	20,710	-2,290
郵送代（切手代）	35,000	31,420	-3,580
蔵書製本費	22,000	0	-22,000
図書購入費	10,000	1,066	-8,934
サーバー使用料	25,920	38,800	12,880
事業費	0	0	0
その他	10,000	6,845	-3,155
小計	848,716	811,776	-36,940
次年度繰越金	613,686	533,126	-80,560
計	1,462,402	1,344,902	-117,500

(2-2) 貸借対照表

貸借対照表 (2021.12.31)				
資産の部		負債資本の部		備考
郵便振替口座	330,613	借入金	369,699	出版会より
ゆうちょ銀行	4,835	前受金	629,000	会費前払分
三菱UFJ銀行	117,342			
現金	80,336			
未収金	156,500	通算損失	-309,073	
合計	689,626	合計	689,626	

(3) 事業計画

- 1 東海E大会（永瀬）
- 2 入門講座（永瀬）
- 3 本に関するネットワーク（伊藤）
- 4 ワールドコラボフェスタ
- 5 愛知サマセミ
- 6 日本大会分科会
- 7 ザメンホフ祭
- 8 八ヶ岳E館での行事

など、事業ごとに担当者を決め、委員長がとりまとめる
 担当者は企画書を提出するものとする

(4) 予算書

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	533,126	家賃	448,800
現会員	500,000	共益費	158,400
新再会員	90,000	保証協会	7,596
寄付	100,000	電気代	100,000
事業収益費	30,000	通信作成代	18,000
本の売上	30,000	郵送代（切手代）	30,000
その他		蔵書製本費	10,000
		図書購入費	10,000
		サーバー使用料	25,920
		その他	10,000
小計	750,000	小計	818,716
		次年度繰越金	464,410
計	1,283,126	計	1,283,126

(5) 委員選出

昨年の委員の内、川地さんは退任、残りの方は留任。
 協力者として水谷良典さんがオブザーバー参加する。

総会に続き、第1回センター委員会で下記の分掌が決まりました。

委員長	山口眞一
副委員長	今井田健二
会計	湯浅典久
機関紙	山口眞一
蔵書	今井田健二、湯浅典久
広報	山口眞一
情報提供	堀田裕彦
総務	今井田健二
姉妹都市	永瀬義勝
無任所	鈴木善彦、伊藤俊彦、藤本日出子、小川博仁、後藤みわ子

Vidindaj Lokoĵoj en kaj ĉirkaŭ Nagoĵo (11)

Nakasendo, Kisoĵi (中山道木曾路)

Nakasendo estas unu el la kvin ĉef-vojoj en la Edo-epoko kaj ankaŭ estas nomata "Kisoĵi", ĉar la vojo trapasas la urbon Kiso. Nakasendo havas entute 543 kilometrojn da longo de Nihonbaŝi en Tokio ĝis Sanĵo-Oohaŝi en Kioto. Laŭ la vojo oni povas vidi allogan pejzaĝon, antikvajn loĝejojn, vendejojn kaj manĝejojn, kiuj retenas vin en la Edo-epoko.

Nakasendo havas 69 staciojn, el kiuj 11 troviĝas en Kiso-regiono. El ili mi prezentos al vi du tipajn lokojn; Magome-ĵuku kaj Cumago-ĵuku, havantaj etoson nostalgian.

Unue pri Cumago-ĵuku

Ĉi tie estas la 42-a stacio, kie staras speciale japanstila luksa hotelo por daimioj (*honĵin*), rezerva hotelo (*waki-honĵin*) kaj historiaj muzeoj. Kompreneble troviĝas ceteraj multaj hoteloj por vojaĝantoj plebaj. Laŭ la strato daŭre viciĝas antikvaj loĝejoj kaj diversaj vendejoj inter stratoj de 800 metroj; tio ŝajnigas nin, ke ni restas en la tempo al la Edo-periodo. Naturo abundas, ĉirkaŭe regas trankvileco, aŭdiĝas ne nur pepoj de la birdetoj, sed ankaŭ susura sono de la fluanta akvo de la rivereto apudavoja. Flanke de la strato eĉ troviĝas trinkfonto, nomata "Mizuhune", farita el ligno. Jes, ĉie en Kisoĵi estas ĉirkaŭata de montaro!

Due pri Magome-ĵuku

Ĉi tie estas la 43-a stacio, kies strato estas dekliva kun pavimŝtonoj, la plej suda el 11 stacioj en Kisoĵi. Ambaŭflanke de la strato



interno de hotelo por daimioj



junuloj promenantaj en Cumago

estas vicigitaj diversaj butikoj por memoraĵoj kaj aliaj. La konservado de historiaj lokoj kaj la nuna vivo kune ekzistas.

En la mezo de la strato sidas la konstruaĵo "Memor-Muzeo de Tooson", memore al la literatura majstro de la Meiji-epoko, ĉar ĉi tie estas lia naskiĝloko.

Por atingi tiun ĉi antikvan stacion per buso oni bezonas dekkvin minutojn de la trajnstacio Nakacugaŭa (Ĉuuou-linio).



rezerva hotelo en Cumago
nun grava kultura propraĵo de nacio

Ambaŭ stacioj, Cumago kaj Magome, tre afable akceptas vojaĝanton!

----- Parenteze, en la Muzeo de Tooson mi ekvidis malnovan Esperantan lernolibron, エスペラント捷徑! Ĉu li estis esperantisto? Ĉu ankaŭ li lernis kaj ĝuis Esperanton? Ĉu antaŭ centjaroj vivis esperantisto en tiel profunda montaro? Estis al mi granda surprizo, ke Tooson lernis Esperanton! Poste mi eksciis, ke li tre bone posedis la francan lingvon. Certe li bone parolis ankaŭ Esperanton! Vidante la lernolibron mi revis pri li kaj fariĝis ĝoja kaj fiera. Viziti tiun ĉi lokon estas bele por esperantistoj! -----

(Huĝimoto Hideko)

第109回日本エスペラント大会

- 日時：2022年9月23日（金・祝）、24日（土）、25日（日）
- 会場：八王子市学園都市センター（東京都八王子市）
- 主催：日本エスペラント協会、日本エスペラント大会八王子委員会
- 形式：会場参加とオンライン参加のハイブリッド
- 大会テーマ：コロナ禍後の新しいコミュニケーション時代とエスペラント
Nova erao de komunikado kaj Esperanto post kronviroza pandemio
- ウェブサイト：<https://jek.jei.or.jp/>

まぼろしを幻と知りつつも・・・言語障害治療法としての翻訳

森田 明

昨年10月、硬膜下血腫の手術をうけた。経過は良好で早々に退院できたが、後遺症の言語障害改善のため、担当医にクロスワードパズルを勧められた。これを「エスペラント翻訳に励め！」と勝手に解釈し、手持ち本の中からまず短編だけを6～7種えらび出してみた。

数年前から寝たきりを続ける連れ合いの介護のため、時間には余裕がない。炊飯が完了するまでの40分、洗濯機が運転中の20分、定期往診の医師を待つ15分、という小刻みな時間を活用した。かの森鷗外がゲーテの「ファウスト」を訳したのは会議中の空き時間だった、という逸話が残っている。大文豪に比べるのは不遜の極みだが、創作や論文執筆などとはちがって、訳文をひねり出すのにはこうした「スキマ時間」が案外有利な場合がある。ということで、今までに訳出を一応終えたのは次の通り。

幸田露伴「幻談」

内田百閒「青炎抄」より『桑屋敷』

林房雄「四つの文字」

三島由紀夫「志賀寺上人の恋」

牧野信一「繰り舟で往く家」

ただし、牧野信一の訳文は2013年JEI刊の「日本文学エスペラント作品集」に採録されたものに多少手を加えただけ。露伴のは幕末期、無役の旗本が海釣りに興じるうち遭遇した怪奇譚。百閒のは病的にまで繊細な気分が状況に先行する、という独特の文体が、あるエピソードを作り上げてしまった一例。林の「四つの文字」は唐代から現代に至る中国の大書家数名が弟子に残した一見矛盾する警句「學我者死」「學我者生」を巡るもの。訳し終わった今もまだ判然としないところがいい。「志賀寺上人・・・」は小生が好む一点。太平記に題材をとり、独自の解釈で巧みに作品化している。難解な仏教用語を別にすれば、原文は端正で、あいまいさがなく、実はいちばん訳しやすかった。そのむかし、三島の『宴のあと』のドイツ語訳に接したとき、これはまるでトーマス・マンが書いた文章ではないか、と感じ入ったことが思い出される。三島は高校・大学とドイツ語を第一外国語として学んでいる。何か関係があるのではないか。「志賀寺・・・」の原文を数行読み、次に翻訳に移ろうとすると、エスペラントよりも先にドイツ語が頭に浮かぶことが多々あった。

以上5編に共通するのは、主人公がいずれも「青年」「娘」「上人」「客」「女先生」「御息所」「大臣」などと呼ばれ、本名が明らかにされていないこと。偶然だろうか。まぼろしをまぼろしと知りつつも魅了されてしまう、というのが各編のテーマになっているところも共通点といえよう。

これからの翻訳予定は石川淳の「山桜」。白石一郎の「幻島記」。

作業中、いちばん利用したのは「エスペラント日本語辞典第2版」だった。高度な学習辞典をうたうだけあって、ハッとする指摘がいたるところに配置されている。翻訳が衰えかけた言語機能の回復に役立っているかどうかについては、まだ確証が得られていない。

(2022年4月17日-記)

梶弘和先生の思い出

米川五郎

私が初めて梶弘和先生にお会いしたのは、昔むかしのことでした。1960年の春、愛知県岡崎市でエスペラント初級講座が開催されることを当時岡崎市に住み始めた私は近所の電柱のポスターで知ることができました。10年前にエスペランティストになっていましたが、エス語入門書を自習したのみでエスペラントの仲間は一人もいなかったのので、喜んでこの初級講座に出かけました。岡崎エスペラント協会(OES)の第2回の初級講座でした。講師の梶弘和先生が日本で有名なエスペランティストであることを、不勉強な私は全く知りませんでした。

初級講座の初めに梶先生は受講者の名前を一人ずつ呼ばれ、どの受講者にも愛称を付けて下さいました。春子さんの場合ハーニョ・Hanjo、彰(あきら)君はアーチョ・Aĉjo。10数人の受講者の名前はお互いすぐに愛称で呼び合うことになりました。梶先生はシンヨーロ・Sinjoroでした。そんな愛称のこともあり初級講座は、初めからずっとみんなニコニコの楽しい雰囲気でした。読本は梶先生著作の26頁のエスペラント講習読本でした。先生の講義はもちろん日本語でしたが、先生はできるだけ簡単なエス語を話すようにされました。受講生に簡単なエス語で質問され、私たちは何とかしてエス語で答えるようにしました。

当時テレビで大人気の「二十の扉」をこの初級講座で、先生はなんとエス語で実践されました。梶先生の楽しい進行のもとに、文字通りのエス語初心者がなんとか楽しく遊びながらエス語版・二十の扉を何度も行うことができました。エス語の単語を覚えることにも役立つ楽しくかつ素晴らしい学習法でした。

その他、エス語の歌 "La Espero" (希望)や "La Tagiĝo" (夜明け)などを先生が一節ずつ歌われて、私たちはそれに続き、覚えることができました。週2回半年間の学習後、受講生は全員岡崎エスペラント協会・OESの会員となりました。

私たちは60代初めの梶先生にご指導を頂くことができました。先生は小柄な方で、黒黒とした口髭が血色の良いお顔によく似合っていました。先生は歯科医として生計を立てられました。とにかく大きな声を立てられたことはなく、いつも微笑をたやさない温和な方でした。1978年ご逝去80歳でした。

牧野三男編纂楽譜集
萌える若草
Arboj verdas nun

この本の編纂者、牧野三男さんは横浜で教師となり、学生時代に会った国際語エスペラントを使い、子どもたちの絵を外国の小学校と交換展示したりしました。その後、聖ヨゼフ学園小学校で音楽教育に携わり、子どもたちの天使の歌声作りに邁進し、NHK合唱コンク



ールでもいくつもの賞を得ています。児童にエスペラントで歌わせることにも成功し、その実践経験は今も、若い音楽教師たちに受け継がれています。

この本には、牧野さん自身が音楽教材として作曲した曲や、エスペラント大会の「歌う会」で指導した歌も含まれ、さらに独唱、輪唱、合唱、遊び歌、賛美歌などの美しい譜面も並びます。子どもたちがエスペラント語はもちろんラテン語や英語でも歌えるように工夫されています。



す。

合唱指揮をしているハマロンド歌唱グループが新しく訳詞した歌、学生時代の親友星田淳さんがエス訳を提供した作品、エスペラント作家堀泰雄さんが作詞・エス訳したハヶ岳エスペラント館の歌や小西岳さんが訳した東日本大震災犠牲者への鎮魂歌なども加えました。教師時代に作曲し長く教材として使った作品も今回の出版のために新しくエスペラントの訳詞が加わり注目されます。

譜面作成には Beltono の山田義の協力で電子入力され、美しく、歌いやすい譜面になっています。ピアノ伴奏者にも使いやすいようにA4判を採用、302ページ、譜面は208を数える楽譜集になりました。牧野さんは、今回自家出版した200部から100部を特価2,000円で多くの音楽愛好家、エスペランティストの皆さんにお届けしたいと言っています。でき上がった本を手にとって、「子どもたちのために、美しい音楽とエスペラントを通して、いま、夢に向かって未来へ飛び立つ鳥のように」と話しています。

『牧野三男編纂楽譜集萌える若草

Arboj verdas nun』

国内送料込み特価 2,000円

問い合わせ・お申し込みは下記へ

取扱：470-1154 豊明市新栄町4-28-205

音調館

jamjustado@icloud.com 山田 義

郵便振替: 00880-4-42603 【音調館】

Ⓐ エスペラントの歌	53曲
Ⓑ 日本の歌	69曲
Ⓒ 外国の歌	28曲
Ⓓ 牧野三男作品	39曲
Ⓔ 宗教聖歌	19曲
全 巻	208曲

仏教聖典改訳第3版について

山口 真一

1981年に日本仏教エスペランチスト連盟（以下JBLEと略称）の先輩諸氏によって「仏教聖典」エスペラント版が発行されたことの意義はとても大きなものがありました。堂々たるハードカバーとオレンジの表紙です。

しかし、残念ながらエスペラント文には、文法上語法上の誤りが少なくなく、そのことは訳者の方々も自覚されていたようで、私がJBLEに入会した1991年には既に、改訳が検討されていたと聞いています。実際に、故・只石智津子さんから、改訳のための検討資料のようなものをいただいたように記憶していますが、それは申し訳ないことながら、どこかになくしてしまいました。もう一つ聞いていたのは、JBLE内部の人だけでは、ちゃんとした改訳ができそうにないので、外部の語学がよくできる人に校閲を頼んだことがあった、ということです。しかしながら、「このままでは校閲以前の問題である」と言われたとか。そして、いつかこの問題はお蔵入りになってしまったようです。前理事長の佐村さんはこのことを気にはかけておられました。

ところが、2019年10月に仏教伝道協会から次のような依頼をいただきました。「当協会発行の『仏教聖典』でございしますが、女性差別についての記述の削除等の改訂を順次進めております。現在当協会ホームページ上で各国語仏教聖典の全文をPDFでご覧いただけるようになりましたが、『エスペラント語仏教聖典』は未改訂のままの掲載となっておりますので、改訂版を公開したいと考えております。つきましては、『エスペラント語仏教聖典』の改訂作業をお願い出来る方をご紹介いただくことは可能でしょうか？」

これは良い折でした。ただ、全面改訳ということになると時間がかかり、当座の協会からの希望に沿うことができないため、まずは現行の英語版の内容に準拠して加除を施し、明らかなミスなどはここで訂正することにしました。こうして2020年はじめに改定2版をPDFファイルの形で協会に提出しました。そして同時に、全面改訳に取り組みました。校正校閲は山本修さんをお願いしました。初版の時は、翻訳委員会と称して18人ものJBLE会員が参加していたようですが、ほとんどが逝去されています。集団的な訳には良さもありますが、今日のようなスピード社会では、のんびりしたことは言ってられません。そこで、かなり無理をしたともいえますが、幸いに電子版（PDF）なら、後からいくらでも修正ができます。ですから、今後第4版に向けて改訳作業を継続することも考えねばなりません。

皆様にはぜひご批正をたまわりたく存じます。（外国の仏教徒エスペランチストにも校閲を依頼しようと思っています。）

（JBLE機関誌“La Japana Budhano” 410号、2022年4月より転載）

☞☞☞ Sinprezento de nova membro ☞☞☞

Mia nomo estas Naomi Hiraishi. Mi estas brazilano. Mi naskiĝis kaj kreskis en Brazilo. Nun mi loĝas en Mizuho-ku. Miaj gepatroj estas japanoj. Ili devenis de Wakayama-provinco kaj transloĝiĝis al Brazilo post la dua mondmilito.

Mi lernas Esperanton ekde la pasinta somero. Mi ĉiutage parolas kun esperantista grupo en Koreio. Ni renkontiĝas virtuale (skype) de lundo ĝis vendredo de la 20:00 ĝis la 21:00. Mi lernas multon pri korea kulturo kaj tieaj homoj. La etoso estas tre afabla kaj ĝentila al novaj membroj.

Dum mi skribas ĉi tion, mi jam membriĝis al la virtuala (ZOOM) grupo "NI LEGU" kun s-ro Jamada Tadaŝi, s-ino Goto Miwako, kpt. Ni nun legas "Júlia Sigmond 90"

Mi antaŭĝojas renkonti ĉiujn membrojn de Nagoja Esperanto-Centro.
Sincere, naomi

活動日誌 (2月から4月)

- 2/10 (木) 17時半から19時半 中級学習会
- 2/23 (水) 19時から20時半 センター委員会
- 2/24 (木) 17時半から19時半 中級学習会
- 2/25 (金) 16時から18時 読書会 (オンライン開催)
- 3/10 (木) 17時半から19時半 中級学習会
- 3/12 (土) 14時から17時 (松原コミュニティセンター)
- 3/22 (火) 16時から18時 読書会 (オンライン開催)
- 3/24 (木) 17時半から19時半 中級学習会
- 4/7 (木) 17時半から19時半 中級学習会
- 4/13 (水) 19時から20時半 センター委員会
- 4/21 (木) 17時半から19時半 中級学習会
- 4/26 (火) 16時から18時 読書会 (オンライン開催)

出版会解散に関する告知

「名古屋エスペラントセンター出版会」は1980年に設立され、多くの方々の出資に支えられて、“Zamenhofa Ekzemplaro”や“Tempo”復刻版など、計6点の書籍を出版することができました。現在は名古屋エスペラントセンター自体を版元とすることが多く、出版会としては1989年に“Zamenhofa Ekzemplaro”を刊行したことにより、その使命を終えたと認識しています。

出資者の皆様にはすでに出資金返金の連絡をさせていただいていますが、残念ながら逝去あるいは転居などの事情により、未だに返金・清算されていない方が数名いらっしゃいます。このたび、出版会を正式に解散するにあたり、再度返金手続きを開始しますが、本年6月末までに返金請求がなかった場合には、寄付扱いとさせていただきますので、ご了承ください。

なお、本告知は『センター通信』304号のほか、メーリングリスト、ウェブサイト、Facebookページにも掲載をします。出資者ご本人あるいは関係者でこれをお読みになった方は、下記へご連絡ください。

(手紙・ハガキ) 〒 461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10

ユニーブル新栄301号 名古屋エスペラントセンター

(電子メール) syam-z@wa2.so-net.ne.jp

名古屋エスペラントセンター出版会代表 永瀬義勝

▶編集後記

○ロシアによるウクライナ侵攻に対し、多くのエスペランチストから抗議の声があがっています。当のロシアでは7割の国民がプーチン支持と言われていますが、ロシアのエスペランチストの中にも侵攻に反対する意見はあり、一時期“Rusiaj esperantistoj kontraŭ la milito”と題するロシアエスペランチスト同盟の幹部数名の声明が“Libera Folio”という独立系エスペラント運動情報サイトに掲載されました。しかしこれは当のロシアエスペランチスト同盟会長からの抗議を受けて削除されました。○日本エスペラント協会では、「私たちは、2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ武力侵攻に強く抗議します。Ni forte protestas kontraŭ la milita invado en Ukrainion farita de la registaro de Rusio, kiu komenciĝis en la 24a de februaro 2022.」と声明を出しています。(山口)

センターの会員(維持員)募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込(口座番号は表紙タイトル下)へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。